



キリシタン大名

高山右近と能古島

理事長兼館長 原 寛

あいにくの雨天にもめげず「タコタコシンガーズ」の男女5人は、戦国時代のキリシタン大名高山右近(1552〜1614年)の数奇な運命を、当時の南蛮音楽に託して伝えようと、本館の「日野原ホール」(研修室)をステージに、さわやかな歌声を響かせてくれました。

「2面の記事と写真参照」。

兵庫県明石市をベースに活動するアカペラ(無伴奏)の声楽アンサンブル。右近は明石の領主でした。奇抜なネーミングは明石名物の蛸(たこ)に由来します。

プログラムは「安土桃山時代の南蛮音楽」に始まり、「大航海時代の二大帝国の音楽」、「現代に受け継がれたスペインと英国」など硬軟取り混ぜた内容。天正遣欧少年使節が豊臣秀吉の御前で演奏した「千々の悲しみ」があれば、「コーヒールンバ」、果てはビートルズナンバーまで。「握りの聴衆を前に、郷土の誇り右近の信仰に殉じた生涯を、全力投球で歌い上げました。」

演奏会のチラシには「右近は明石へ二度と戻ることはありませんでした。信仰の道を選ぶ事を博多の地で決心したのです」。「その縁をきっかけとして明石を拠点に活動するタコタコシンガーズが、能古島の地で歌、音楽を共有したいとの想いで開催するコンサートです」と。

来年もまた聴きたくなりました。

【注】洗礼名をユストといった右近は紆余曲折の末、徳川家康によって1614年フィリッピンのマニラに家族とともに追放され、1年足らずで病没します。享年63歳。マニラのイエズス会墓地に葬られました。



原 寛

息の合った演奏を聴き終えた聴衆の間からは「よかつたね」、「感動した」、「博物館らしい催

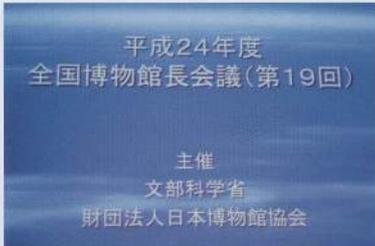
し、」もつと多くの人に聞いてもらいたかった」とさまざまな感想が聞かれました。「でもどうして能古島なの?」との疑問も。残念ながら十分な知識も資料も持ち合わせませんが、能古島に右近が足を踏み入れた史実があると、リーダーの今泉仁志さんは言います。右近は秀吉の命令で島津征伐に加わり九州へ赴いたとき、博多の地で秀吉に棄教を迫られ、博多沖の小島(能古島)にいったん身を隠したのだそうです。それを証拠立てる古文書もあるとか。

ハ写真説明V リニューアルオープンした第1展示室。8面に関連記事。

東日本大震災 遅れる文化財保護

放置状態の警戒区域

全国博物館長会議(東京)開く



第19回全国博物館長会議は6月13日(水)東京虎ノ門の文部科学省で開かれ、全国から約400人の関係者が集まった。写真下。東日本大震災の現地報告では「文化財の残らない復興は本当の復興ではない」(豊前高田市)と遅れる文化財保護に苛立ちの声が上がった。

また文化財の放射能汚染に関し福島県立博物館のパネラーは「地域社会が崩壊する中で所蔵品を1点、1点線量計で計って持ち出さなければならぬが、いまだに基準がはっきりしない。福島第一原発から半径20km内の警戒区域には双葉町歴史民俗資料館はじめ富岡町、大熊町、椎葉町に同種の施設がある。各館の学芸員は献身的な努力を払い資料保存に腐心しているが、通電していない施設や雨漏りをしている館があり、カビ繁殖の危険性がある。文化財に限ったことではないが、警戒区域の施設及び資料は3月11日のまま放置されているのが現状である」と語り、目下のところ放射能汚染の実例はないとしながら、「今後、文化財の放射性物質の検査、及び除染システムの確立が急務だ」と訴えた。

このほか「博物館長の役割」(三重県立博物館長)、「館長のリーダーシップ」(姫路市・日本玩具博物館長)の事例報告があった。



◇1面関連◇

「たこ」のマスコットひっさげ登場

親しみ持てた歌声

サブタイトルは「戦国時代のキリシタン大名高山右近の足跡を辿って」(明石から博多へ)。2007年に明石で結成したタコタコシンガーズにとって念願の能古島公演だったが、知名度は高くPRも不足気味。気の毒になるような聴衆の数だった。だが5人は意に介せず伸びやかに口頃の成果を披露した。写真左。演奏の合間には戦国時代のキリスト教会が信者に配ったという「金平糖」(関西で商品化)を女性歌手が「おひとついかが」写真右。テノールの岡本雄一さん(写真右から2人目)は地元出身。合唱王国福岡の全盛時代を築いた故森脇憲三さん(福岡学芸大教授)に師事した。「こわい先生でしたね」。マスコットの「たこ」写真左

同様にみなさん気さくな人柄だった。



基調講演

「君はモナリザを見たか」
〜本物を見せてあげたい〜

福原 義春氏
(株資生堂名誉会長・東京都写真美術館館長)

★ 全国博物館長会議の基調講演「君はモナリザを見たか」本物を見せてあげたい(福原義春氏)の聞き書きメモを掲載します。(文責・編集部)

■私の原点■ 小学校6年生のとき東京・上野池之端産業館で観た「レオナルドダビンチ展覧会」。福原さんは1942年7月12日付けの朝日新聞を紹介しながら、少年の心に深く刻まれた感動をまづ語った。

■作品のサイズに込められた意味■ 絵の力は作品の大小ではない。私は1950年に駒井哲郎「注」参照の8.4センチ×9.9センチの銅版画に出会い、これまでに5百点ほど収集した。石橋美術館(久留米市)所蔵の青木繁の代表作「海の幸」(1904年)は「本物」を見るまではもっと大きいと思っていたが、実際には70センチ×182センチと意外に小さかった。しかしそれが青木にとつての必然なのだ。ゴーギヤ

福原義春さん



ンの「タヒチの女」は139センチ×374.6センチ。ボストン美術館から里帰りました曾我蕭白の「雲龍図」は165.5センチ×108.0センチもある。作品のサイズに込められた作家の意図は「本物」の前に立たないと判らない。



■「本物」とは■ ミロのピイナスが日本に来たとき、400万人以上の日本人がこの彫刻だけでなく、その後ろに掲げられた「フランス」に気づき、「本物」と「複製」の違いに感動した。当時の大統領ドゴールと文化相マルローの決断があったからこそ実物を見ることが出来た。スポーツカーのフェラーリはエンジンの爆音、オイルの匂いを嗅いで初めてその価値がわかる。複製ではない本物が伝える「時代」に人々は惹きつけられる。

■ヨーロッパの創造都市■ ヨーロッパでは地方の中規模都市、小自治体に「本物」が創作された「時代」が今に残り、文化を基準とした活性化が行われている。ミラノ、ボローニヤ、ビルバオ、バルセロナ、

グラスゴー、マンチェスター、ナント、リヨンなどの中小都市だ。

■本物だけが有する密度■ 人々は鎌倉の大仏を何度も見ることによって感受性を磨かれる。金沢の21世紀美術館では親子連れに「もう1回券」を出して再訪を促している。

■東京都写真美術館■ 10年間館長を務めているが、広報不足を感じ(前例がないという部内の声を押し切って)毎年記者懇談会を開き(先頭に立つて)PRしてきた。如何に人手が足らなろうがボランティアで補い、学芸員は雑芸員になって頑張った。予算は半分に削られたが入館者は倍増。効率から言うと4倍の効果があった。

■日本の現状■ 日本人の五感、感性は危機的状況にある。大資本による質の標準化(イコール劣化)による個性と多様性の喪失、人間本能と五感の喪失...。満ち足りたが故の「不足感」とでも言おうか。

■私たちのミッション■ 「リアル」の「戦慄」と「本物の価値」を伝える仕事。ミュージアムは人々が本物に触れ、豊かな人間性を獲得、回復する「場・空間」である。たとえ小さくても輝くような、市民に期待される施設を目指そう。

△注▽ 駒井哲郎(こまい・てつろう・1920) 1976年)銅版画家。東京生まれ。東京美術学校油絵科卒。春陽会会員。50年代前半、盛んな制作、出品で国際的な活躍をみせ戦後日本の銅版画隆盛の先駆的役割を果たした。その後も精細巧緻な技法によって戦後の銅版界をリードした。(朝日新聞社編「現代人物辞典」より)

▽東京都写真美術館 目黒区三田の恵比寿ガーデンプレイス内に1995年開館。世界でも有数の2万5千点以上の写真・映像コレクションを誇る。年間を通じて展覧会を開催。収蔵展、映像展のほか維持会員の支援を基に自主企画展、他団体との共催展などを展開する。2009年度の入館者数約41万5千人。

能古博物館所蔵「石橋家文書」から その6

家屋敷売渡・質入れ証文

(参照資料・石橋家文書4、5)

友の会会員 石橋善弘

江戸世相の話が2回続いたので、また商家らしくお金の話に戻ろう。

石橋家文書の特徴の一つとして、土地・家屋敷の売渡証文、金子の借用証文の多いことが挙げられる。それらに出てくる多くの人名、土地名、物価などのデータをまとめて眺める事により、姪浜(現福岡市西区)というローカル話とはいえ、江戸時代後期の庶民の暮らしが浮かび上がってくるはずである。

今回は、数多く残っている家屋敷売渡証文・質入れ証文を見てみよう。

文書番号5の資料は、文化9申年(1812)3月の家屋敷質入れ証文である(写真1)。表記は「文化九年御上納ニ差支我等抱之家屋敷質入借用仕ル証文之事」となっている。借主は寺前の十蔵、保証人は善助、貸主は油屋与右衛門であり注1、六拾文銭234匁5分で質入れされた家屋敷は表口4間1尺5寸、裏横4間半、奥行き19間の土地に家1軒建っているものである。この件聞き届けたという奥印は組頭喜右衛門、源吉が押している。

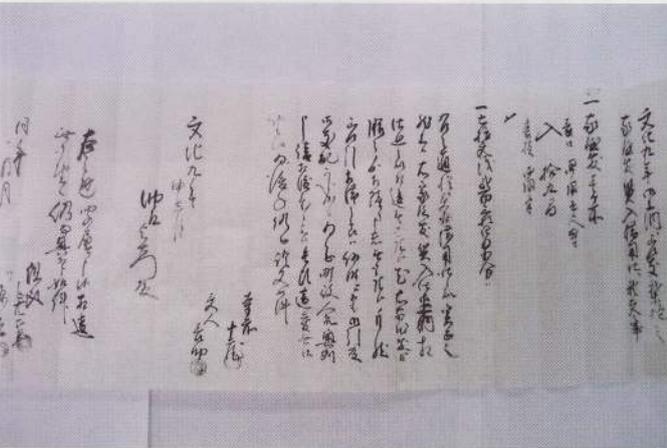


写真1

質入れの担保となつている家屋敷は、約80坪の土地プラス家1軒である。では、その代金の方

(実正也)。しかる上は右家屋敷を質入れし(担保にし)上納致しますことに相違ありません。もつとも右の家屋敷について脇の方から苦情を申す者があるはずはありません。差引(返済)が滞つた節はなんときでも引き取り御支配いただくのは当然です。念のため町役人衆の奥判を申し受け、お渡ししますので毛頭間違いございません。後年のため、依つて証文件(くだん)の如しとなつているが、これは当時の慣用表現である。

他方、奥判を押すに際しての文言にも、「右の通り聞き届けた事は相違ありません。依つて奥印、件の如し」という慣用表現が使われている。

さて、この質入れ証文で、「御上納にさしつかえる」ので家屋敷を質入れするとの理由が明記されていることは注目に値する。江戸時代初期は、土地の売買

はどうだろうか? 六拾文銭234匁5分は、1文が現在の40円に相当すると仮定すれば、約60万円になる。

ところで、なぜ、文書中に名前が出てこない石橋家にこの文書が残っていたのであろうか? おそらく、後日石橋家が質入れの際の貸金相当を油屋与右衛門に融資したか、あるいは同じ土地を購入したか、どちらか証明はないが、いずれにしても石橋家に土地が渡つたのだろう。そうだとすると、石橋の名前が出てこないのに、この証文が石橋家に残つたのもうなずける。

次に、文書番号4の資料は、家屋敷永代売渡証文で、表記は「私抱之家屋敷依仕組永代夫相伝二売渡申証文之事」となっている(写真2)。すなわち、弘化5年(1848)2月前糶屋利三郎が家屋敷を石橋善三郎(直実)に正金3両1歩で売渡した証文である。売買の対象となつたのは、表口4間1尺5寸、裏横4間半、奥行き19間の土地に家1軒建っているものである。この家屋敷にかかる税・役務については半役掛り、米8升4合を興徳寺に収めるべきことが付記されている。請人(保証人)は平市、惣助、奥印は下野間町組頭藤助、弥平が押している。

なお、ここでいう半役掛りや本役掛り等は、間口の広さによって決まる町内での役務(間口掛り、内掛かり)である。

この売渡証文にも、この時代の証文におけるいわゆる慣用表現が使われているので、以下に一応の訳を付けておこう。

「右の代金たしかに請けとり、永代にわたつて売渡した事は間違ひありません(実正也)。この件については、一族は申すに及ばず、いずれの方よりもいささか

も苦情をいう者はない筈ですので、以後貴殿の御支配にお任せします。つきましては、これまで内掛かりは半役掛りでお役目を果たしておりますが、万一以後町内の仕組み(決まり)により本役掛りなどといつてきた折には、私分を相續下さった旨申し立てして下さい。念のため、証人を立てております。なおまた間違いがないように町役人衆の奥判をいただいておりますので、毛頭間違いございません。後年のため永代売渡証文、依つて件(くだん)の如し」。

さて、ここでも土地売渡しの理由が「仕組みによる」と明記されている。前述のように、理由を明記することが、権利関係の移動をとがめられないための予防策か、あるいは、この時代になると単なる習慣になっていたのかはわからない。問題は「仕組み」の意味である。「仕組み」というのは、通常は、制度・経済政策・産業振興策などを思い浮かべればよいのだが、ここでは、それでは意味不明である。しかし、古者によると、姪浜あたりには「あすこもとうとう仕組(ぐ)まつしやった」という言い方があったようで、「仕組み」が「倒産」を意味している可能性がある。まさか、仕組んで倒産、つまり計画倒産ではあるまいが、そういう意味ならば、「ニツチもサッチもいきまつしえんケン、家屋敷バ手放すとですタイ」ということであるから、お上からみても、「止むを得ないなあ」となるはずである。

ところで、善三郎(直実)は家が1軒建っている約80坪の土地を正金3両1歩で買い取ったわけであるが、1両の現代価値を仮に20万円とすると、60万円強の買物である。一見、ずいぶん安い買物のように思われるが、江戸時代の物価を現代価格に換算すると、特に銀価格を換算するときには、5倍程度の感

覚的な差がでてくることも稀ではないので注意しておかなければならない。

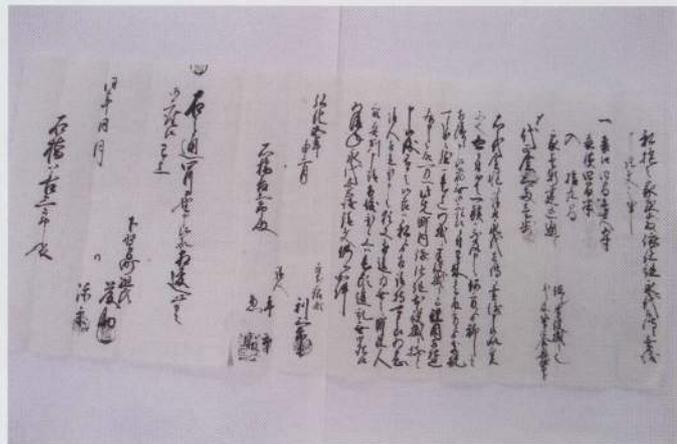
それよりも、読者は家1軒ついた約80坪の土地の売買価格が文書番号5に出てくる質入れ代金と似たりよつたりのものであることにお気づきだろうか？

ふたつの商行為には36年の年代差はあるものの、インフレなど大きな物価変動はなかったらしいので、ほぼ同じと見てよいだろう。質入れと買取りの価格がほぼ同じ？ このことをもとに、借主・貸主とも、この「質入れは質ながれ」を前提としていた、あるいは借主は担保を買い戻す意志はなかった、つまり質入れの形式をとった事実上の売買だったのだという推測が成り立つのではないだろうか。売買による権利関係の移動を咎められない様に、故意に質入れという形にしたのではないか？

勘ぐりすぎかもしれないが、質入れ証文をよく見ると、家屋敷を担保に金子を借用するということが書かれていても、利子など買戻しの条件が記されていないようだ。

本稿でとりあげた証文についての疑問はそれだ

写真2



けではない。対象となっている土地の形状は明確に示されているが、その土地がどこにあるのか、どの通りに面しているのかなどは皆目わからない。要するに、関係者だけにわかる「ほら、あそここの土地ですよ」という指定の仕方である。それで困る事はないのか？ たとえば、土地の境界はきちんとしていたのか、所有者は明確になっていたのだろうか、などの疑問があり得る。それに対する回答は「困ることはない」である。実は、江戸時代にはすでに「名寄帳」というものがあった、それには田畑・屋敷の面積・石高などを所有者ごとにまとめて記載されていたのである。この名寄帳を管理していたのは郡役所(村役人)であるが、売買・質入れなどで土地の所有者が変わる度に名寄帳の修正を行っていたようだ。

したがって、当事者にとつて困る事はなかったのであるが、後世の我々が売買された土地の場所を特定しようとする、やっぱり困るのである。そこで、売主の住所、奥印を捺した者の担当地域から、売買された土地の場所がおおよそでもいいから特定できないだろうか。この点に関しては、文書番号4の証文は役に立ちそうである。通常、借用証などでは、金子を受取った者が住んでいる場所の組頭が奥印を捺しているようであるが、このケースでは寺前(寺は順光寺らしく、寺前は現福岡市西区姪浜6丁目付近)の住人(糺屋利三郎)のために、別の町である下野間町(現福岡市西区姪浜5丁目真根子神社あたり)の組頭が奥印を捺していることから判断して、土地を管轄している組頭が責任をもつことになっているらしく、従つてここで売買されたのは下野間町内の土地らしい。そうだとすると、証文に出てくる興徳寺は、類焼被害に遭つて移転する前は、下野間町にあった

のであるし(能古博物館だより「第61号」)、「興徳寺へ米8升4合を収めるべし」という条件もうなずける。同じ伝でいくと、文書番号5に出てくる質入れされた土地は奥印を捺した組頭の担当区域にあるらしいが、町名が明記されていないので確かなことは言えない。しかし、関係者の名前からみて、且過町である確率が高い。

最後に蛇足であるが、耳学問によると、間口幅で役務などをきめたのは日本だけのことではなく、ヨーロッパでも間口幅によって税金を課していたようである。そうなる間口幅は狭い方が有利であるので、たとえばアムステルダム(オランダ)の運河沿いには間口幅の狭い商人の家がびっしりと並んでいる(写真3)。しかしそれぞれの奥行きは結構あって、屋敷としては決して小さくはないようだ。いちいち家の中に立入ることなく、誰にでも分かる間口幅で税金や役務をきめるのは合理的であり、ある種の公平さは保障される。

写真3



洋の東西を問わず、人間の考える事は似たりよつたりという事であろう。

注1 江戸中期以降、姫浜宿には「二の宿」、「三の宿」、「三の宿」があり、油屋は「三の宿」であった。なお、「二の宿」は紙屋(石橋善三郎家)、「二の宿」は金住屋(石橋姓)である。三宿とも屋敷図が残っている(浜家文書)。

注2 「石橋家文書研究会代表・早船正夫氏のご教示による。」

(いしばしよしひろ・修猷館高、東大院卒・名古屋大学名誉教授・理学博士)



2



3



1



4

能古中学校名物の第20回博多湾遠泳大会は7月18日午前10時過ぎ福岡市西区の小戸公園をスタート、島の西側海岸までの1.5キロで行われた。昨年は悪天候で中止になり2年ぶりの開催。参加したのは男子17人(1年4、2年6、3年7)、女子13人(1年2、2年7、3年4)の計30人。49分から1時間20分のタイムで全員完泳した。

カメラスケッチ

博多湾の伝統行事 能古中学校の遠泳大会



5

写真説明

- ①正面の能古島目指し、いざ挑戦。
- ②いっせいにスタート。
- ③完泳した生徒を迎える駐在所員と保護者ら。
- ④泳ぎ切った満足感にひたる生徒たち。また一段と遅しくなった。
- ⑤公民館でカレーの昼食。

留学生から「能古ハイク」まで 老若の団体客で賑わう



◇6月16日(土) 福岡市東区和臼の福岡工業大学(下村輝夫学長・学生総数4,253人)で学ぶ海外留学生らが見学を訪れ、館内は五カ国56人(男子39、女子17)の若者で賑わった。国別の内訳は中国31、タイ11、韓国4、アルバニア1、日本9。同大学生課の職員3人が付き添った。



「日野原ホール」(研修室)で館の生い立ちと展示内容の説明⇨写真①⇨を受けた二行は、本館「海の部屋」の大型ジオラマ⇨写真②⇨で博多湾の地形と歴史を確かめたり、別館に展示された船舶用霧笛を鳴らしたり⇨写真③⇨、約1時間半かけ熱心に見て回った。別館2階では「海外引き揚げの記憶」の地図に当時の表記「満州」が使用されているのに気づいた中国人学生から「過去の国名をなぜ使うのか?」との質問があり、あえて使用する理由を説明した。



◇7月1日(日) 「能古島ウォーキング」(西区まると博物館推進会主催)の参加者大人53人、子ども9人が訪れた。西区役所の職員ら17人が付き添い、地元スタッフ6人も協力した。雨期のため予約のキャンセルが約半数に上ったのは残念だったが、曇り空のもと2組に分かれて入館。整然かつ熱心に見て回る姿が印象的だった。
なお、この日の入館者総数は89人に達した。内訳は有料(団体扱いを含む)55人、無料33人、前売り1人。

◇7月21日(土) 「玄洋校区・男女共同参画をすすめる会」の20人。白鬚神社、檀二雄旧宅跡、永福寺、万葉歌碑を巡り来館した⇨写真下⇨。



・寄贈資料

▽寄贈者⇨福岡市中央区 瀬戸晃さん

▽コロンブスの帆船「サンタマリア号」の模型

高さ148センチ、全長175センチ、全幅46センチの大模型。「スペイン政府がコロンブスの大西洋横断5百周年記念に製作した3隻の内1隻と聞いています。ヨーロッパ旅行中に日本の大手広告代理店の世話で購入しました」と瀬戸さん。

コロンブスはスペインで建造した3本マストの旗艦「サンタマリア号」(全長26.5メートル)に乗って他の2隻と共に大西洋を無事横断しバハマ諸島に達したが1492年12月24日、同号はイスパニョーラ島で座礁し解体され、使える木材は要塞の資材になった。ナオ船と呼ばれた外洋帆船。船首楼と大型船尾楼を持ち、3本以上のマストを備える。



◇第2展示室に展示◇

日本海海戦から107年目 博多湾口で国難しのぶ追悼式



元寇が13世紀の「国難」なら日露両国海軍が砲火を交えた日本海海戦は20世紀初頭の「国難」だった。福岡市民の耳には博多湾口からそう遠くない対馬海峡の砲声が届いたそう

だ。
記念日の5月27日、今年も自衛艦の体験航海が行われ、洋上で追悼式が営まれた。「皇国の興廃此の一戦にあり各員一層奮励努力せよ」。Z旗を掲げたそのとき、司馬遼太郎のベストセラー「坂の上の雲」に登場する秋山真之は旗艦「三笠」の艦橋にいた。そんなことを思い浮かべながら、日本海海戦記念大会(事務局・菅崎宮)が催した約3時間の航海に参加した。忘れてはならない史実を心に刻むために。
(編集部)



△写真説明▽ ①菅崎宮社頭の有名な「敵国降伏」の額の下に掲げられたZ旗(日章旗の左) ②博多港中央岸壁の自衛艦 ③甲銃発射 ④家族連れの様が目に付いた

◇第1展示室◇

新たな装いでオープン

本館の大きな使命のひとつ亀井南冥の史実を展示する第1展示室の内容更新と改修工事がほぼ終わった。開館以来約四半世紀、同様の内容で展示してきたが、よりわかりやすい表現で南冥一門の業績を説き、若い世代にアピールしようと、大幅な内容変更に踏み切った。

大別すると「金印発見者としての南冥」、「節を曲げなかった南冥の生涯」、「甘棠館と修猷館」、「長男昭陽ら一門の業績」、「医学との関わり」、「門下生広瀬淡窓」、「唐人町の今昔」に重点を置き、今に残る南冥の足跡を検証した。また壁紙を取替え、説明パネルの文字を大きくした。今後、英字の説明パネル設置と照明のLED化を行い終了する。



ロシナンテス、認定NPO法人に 昨年度、友の会を中心に応援の募金活動を行い約百万円の義捐金を贈ったロシナンテス(川原尚行理事長)が、1月16日付けで認定NPO法人の資格を得た。同日以降ロシナンテスに寄付をすると、確定申告のとき寄付金控除等の優遇措置を受けられる。詳細はロシナンテス本部事務局(北九州市小倉北区)へ。
電話093192216470
FAX093192118962
メール:info@rocinantes.org

金印シンポジウム 今年で6回目の『金印シンポジウムIN志賀島』(主催・志賀島歴史研究会)の日程と会場、講師が決まった。10月20日(土)福岡市天神の市役所15階講堂で。講師は昨年に引き続き森浩一同志社大学名誉教授。会場を島内から市中心部に移し、さらなる発展を目指す。

『日本医術のことはじめ』(まじないから解体新書まで)展終わる 九州国立博物館で5月9日から7月1日まで開催され、原三信家所蔵の『人体解剖図』などが展示された。

駐在所落成式 4月17日、原田大助西署長らが出席して西警察署能古駐在所の建て替え落成式が公民館で行われた。

写真(下)の背後は装いを新たにした駐在所。



能古博物館協賛会・友の会

継続・新規会員 (平成24年7月現在)

法人協賛会員

- 医療法人 笠松会 有吉病院
- 税理士法人 エム・エイ・シー
- 医療法人社団 江頭会 さくら病院
- 医療法人社団 廣徳会 岡部病院
- 多々良福祉会 特別養護老人ホーム なごみの里
- 多々良福祉会 たいようの里
- (株) CDS
- 医療法人 恵光会 原病院
- (株) サンコー
- 原学園 原看護専門学校
- 浄満寺
- (株) メディカルアシスト青葉
- (医) 大乗会 福岡リハビリテーションシオン病院
- (株) 彩苑
- (株) 豊友 技建工業
- エムサービス(株) HSS九州事業部
- (有) トータルサポート・コーポレーション
- (株) ホームケアサービス
- 西日本シティ銀行土井支店

(敬称略・順不同)

個人協賛会員

- 明石 散人
- 足立 晴道
- 安藤 文英
- 石野 智恵子
- 出口 親
- 上崎 典雄
- 上野 道雄
- 岡部 さよみ
- 柏木 重人
- 亀井 准輔
- 河邊 鐵夫
- 久保 千春
- 熊谷 豪三
- 毛戸 彰
- 朔望 元則

友の会会員

- 島塚 祐弘
- 仁保 喜之
- 鈴木 友和
- 添島 律子
- 平祐一
- 多々羅 節子
- 寺坂 禮治
- 寺田 隆
- 戸井 雅貴
- 原敬二郎
- 原寛
- 原真澄
- 原礼子
- 藤井 鉄夫
- 舟越 茂義
- 増田 康治
- 翠川 文字

- 市丸 喜一郎
- 出光 豊
- 出光 芳秀
- 井上 昭義
- 稲葉 英彦
- 今永 一成
- 今川 さち
- 石清水 由紀子
- 岩本 博秀
- 上園 幸則
- 上田 恒久
- 上田 博
- 上原 孝正
- 上村 八郎
- 牛島 弘子
- 内山 茂美
- 内山 節子
- 宇都宮 邦子
- 内海 眞記子
- 梅埜 國夫
- 江口 正一
- 江崎 恭仁子
- 大石 彩子
- 大野 茂
- 大木 照子
- 大島 照子
- 大智 玲子
- 大庭 浩司
- 大庭 静枝
- 岡部 九枝
- 岡部 眞實
- 小川 誠
- 小川 道博
- 荻原 美枝子
- 小野 崎徹
- 小野 和子
- 柏木 悦子
- 香月 柳子
- 金子 悦子
- 嘉村 正水
- 川田 啓治
- 河野 啓治
- 河邊 鐵夫

- 河邊 眞二
- 河村 敬一
- 木皿 敦代
- 北原 君子
- 岸和枝
- 岸洋子
- 岸川 伸子
- 吉瀬 宗雄
- 城戸 兼子
- 木戸 龍一
- 木山 啓子
- 清田 美弥子
- 久世 玲子
- 國武 英子
- 久芳 正隆
- 黒田 明子
- 甲本 達也
- 小坂 セツ
- 小堀 瑠伊子
- 小宮 作
- 小柳 定子
- 小山 儀一郎
- 小山 富夫
- 小山 富夫
- 神和 美
- 坂口 征雄
- 坂梨 喬
- 櫻木 榮紀
- 佐藤 郁男
- 塩田 康文
- 執行 敏彦
- 篠田 栄太郎
- 篠原 ヨシ子
- 柴戸 次雄
- 柴本 隼太
- 白橋 裕美
- 進藤 康子
- 杉謙一
- 杉原 正毅
- 杉本 謙
- 関師 祐子
- 住本 直之
- 住本 直之

- 関賢司
- 関敏巳
- 瀬戸 美都子
- 芹野 二美
- 高木 いづみ
- 高嶋 俊光
- 高嶋 季雄
- 高島 英介
- 高根 襄
- 高松 まり
- 武田 洋子
- 田坂 大蔵
- 田里 朝男
- 田代 朝子
- 立石 京
- 谷口 治達
- 武末 照男
- 多々羅 吉臣
- 田村 奈央
- 徳永 武生・和子
- 富永 靖雄
- 豊田 文彦
- 豊田 美子
- 長尾 勲
- 永岡 喜代太
- 中島 謙吾
- 中島 伶子
- 中野 晶子
- 鍋島 典子
- 成富 耕志
- 成富 睦夫
- 西方 俊司
- 西方 靖子
- 西牟田 奈々
- 西山 紀子
- 野崎 逸郎
- 野村 武
- 長谷川 寿美子
- 波多野 直之
- 服部 たか子
- 福山 智美
- 八田 朋美

- 花田 ひろ子
- 濱崎 須美子
- 林十九楼
- 林由紀子
- 原和美
- 原順子
- 原靖子
- 原祐一
- 原口 和子
- 原坂 泰盛
- 日野原 重明
- 姫野 弘子
- 平川 好美
- 平川 良輔
- 廣田 恵美子
- 福井 和子
- 副島 靖弘
- 福田 殖
- 福富 節子
- 福元 征四郎
- 藤瀬 三枝子
- 藤田 信義
- 藤村 昌弘
- 舟越 茂義
- 船津 康幸
- 古川 映子
- 豊丹 生昌義
- 星川 満智
- 堀川 大助
- 前田 敏也子
- 眞柴 和子
- 増田 志津子
- 眞角 磨鬼枝
- 松井 俊規
- 松岡 智恵子
- 松熊 友彦
- 松本 美津子
- 的野 恭一
- 丸山 敏子
- 三浦 佑之

- 見沢 照栄
- 三角 幸子
- 溝口 進
- 三戸 京子
- 三苦 進
- 南アサノ
- 三野原 勝子
- 三宅 碧子
- 宮崎 美津子
- 村岡 建次
- 村上 牧
- 杜あとも
- 森恍次郎
- 森純子
- 森下 昭子
- 森本 繁
- 安恒 忠男
- 安松 淳史
- 安松 淳祐
- 矢野 鈴子
- 山川 美也子
- 山川 淑子
- 山口 勝久
- 山崎 博司
- 山田 博子
- 山本 留美
- 吉開 史朗
- 吉倉 禎子
- 吉田 登美代
- 吉田 泰久
- 吉田 洋一
- 吉松 須和子
- 米倉 満子
- 脇山 玉枝
- 和田 宏子

注)敬称略・五十音順・数字は会員歴(年数)

- (一)協賛会費
個人1000円・一万円
(何口でも可)
- 法人10000円・三万円
(何口でも可)
- (二)友の会会費
1000円・三千元
(何口でも可)
- ※会費の納入方法
郵便振替
017300060670
財団法人能古博物館
- (1)振込み料は当館にて負担させていただきます。
- (2)受付が次第、会員証とコピーチケットをお送り致します。
- (3)会費有効期限は1年と致します。
- (4)入館時に会員証(同伴1名まで有効)を受付けにご提示下さい。ご入館は随意で回数制限はなく無料です。
- (5)コピーチケットで挽きたての香り豊かなコピー紙をサービス致します。
- (6)「能古博物館だより」を年数回お送り致します。また、会員の皆様の御寄稿・ご意見は同誌に掲載致します。但し諸事情で掲載を見送る場合がございます。
- (7)館が企画する催物の案内と参加費の割引を致します。

